

海岸林の防災効果とその限界

柳澤英明

海岸林などの自然が本来持つ防災機能をグリーンインフラとしてとらえ、減災に生かしていくことは経済的かつ環境的な観点から重要である。海岸林の津波減災効果に関して、わが国では古くからその効果が着目されており、実態調査や水理模型実験、また近年では数値シミュレーションによって検討が行われ、その有効性が確認されている。

一方で、大きな津波や高潮などが襲来した場合、海岸林は大規模に破壊され漂流物化し、背後地の被害を拡大する危険性をもっている。海岸林を津波防災対策へ取り入れていくためには、海岸林自体の破壊条件も考慮した上で、その限界について検討することが必要となる。本発表では、海岸林、特にマングローブの減災効果とその限界について整理し、防災・減災対策に利用していくための方法について議論する。

柳澤英明

東北学院大学教養学部地域構想学科 准教授

2012年東北学院大学採用。専門は海岸工学（津波工学）。数値シミュレーションや水理実験、現地調査などによりマングローブの津波減勢効果とその限界に関わる研究に取り組む。最近は、3D スキャナを用いてマングローブの支柱根形状や森林変化の研究を進めている。